

国立新美術館 2025年 ごあいさつ 春

Spring 2025 Greeting
from the National Art Center, Tokyo



2025年が始まりました。国立新美術館は更に「新美らしい新しさ、アクセスしやすさ」を積極的に展開いたします。国立新美術館は、昨年11月18日から今年の1月31日まで、クラウドファンディングを初めて行いました。「リビング・モダニティ 住まいの実験 1920s-1970s」展において、ドイツの建築家、ルートヴィヒ・ミース・ファン・デル・ローエが設計し実現に至らなかった「ロー・ハウス」を原寸大で展示する試みに対して、488名の方からご支援をいただき、充実した展示が叶う運びとなりました。皆様のご支援により、多くの方々に展示会の魅力をよりよい形で伝えることが可能となり、大きな力をいただきました。心より御礼申し上げます。

コレクションを持たない国立新美術館では、「情報や資料の収集・公開」にも努めてまいりました。このたび展示会の情報検索システム「アート commons」のリニューアルを行い、都道府県や開催年からより直感的にアクセスできるように整えました。ウェブサイト上で提供できる国内の展示会情報は、開館以来6万件を超えています。皆様の積極的な活用を期待いたします。

国立新美術館は開館時から授乳室を設置していましたが、このたび Adobe Foundation の支援を受け、授乳室（ベビーケアルーム）のリニューアルを行いました。お子さまとともにご家族でご来館いただいた場合でも、安心して使用していただけるよう、利便性をはかりました。

国立新美術館に何回も来てくださっている方、時々の方、初めての方たちが、当館の活動を通して、アートに触れる楽しみとともに異なる考え方に気づき、心豊かに他者への理解や思いを深めてくださることを願っています。

2025年が多くの人々にとって、分断から対話への道筋を歩むことができる年となりますように。

国立新美術館長 逢坂恵理子

お知らせ

展覧会情報検索サービス「アートcommons」リニューアル



都道府県別絞り込み機能



館別の検索オプション

アートcommons URL

<https://www.nact.jp/artcommons/>

国立新美術館では、「情報や資料の収集・公開を通じて人と芸術をつなぐ美術館」を活動方針のひとつに掲げ、長年にわたり展覧会情報の収集と提供を行ってまいりました。このたび、国内の展覧会情報を提供する検索サービス「アートcommons」をリニューアルいたしました。

新しい「アートcommons」では、都道府県(空間)と開催年(時間)という二軸から展覧会情報を直感的に検索可能にし、6万件を超える展覧会データベースへのアクセスがこれまで以上に簡便となります。

主なリニューアルポイント

1. 検索機能の向上
展覧会タイトル、美術館名、ギャラリー名、作家名、またはテーマ(美術、建築、デザイン、ファッション、写真、絵本、漫画、アニメーションなど)を用いて、多様な切り口で情報を検索することが可能です。
2. 都道府県別絞り込み機能
中部地方→石川県といった地理的条件を組み合わせることで展覧会情報を絞り込むことができます。
また、開催年や開催順(昇順・降順)を指定することで、現在開催中の展覧会情報も簡単に把握できます。
3. 館別の検索オプション
館の名称をクリックすることで、特定の施設に関連する情報を一覧表示できます。

利用シーンと利便性

「アートcommons」では、美術館や美術団体、画廊から提供されたプレスリリース、カレンダー、チラシ、ウェブ情報を基に構築されたデータベースを活用し、展覧会タイトルだけでなく、展覧会概要や関連情報も検索可能です。例えば「ルーヴル美術館」と「東京都」を組み合わせると、東京で過去に紹介されたルーヴル美術館の所蔵品や、それに関わる作家たちの展覧会情報を簡単に見つけることができます。

新しい「アートcommons」は、調査研究の一助として、また美術を「読む」楽しみをみつける場として多くの方にご活用いただけることを目指しています。

お知らせ

授乳室（ベビーケアルーム）リニューアル —より快適で安心できる空間へ—



このたび、国立新美術館は、より快適で安心してご利用いただける空間となることを目指し、Adobe Foundationの支援を受けて授乳室（ベビーケアルーム）の全面リニューアルを実施いたしました。

今回のリニューアルでは、まず壁の塗り替えや床材の貼り換えを行い、全体の雰囲気を明るく温かみのある部屋に一新。ご利用になる方全員が心地よく過ごせる空間を目指し、授乳室の環境を整えました。

女性専用の授乳ブースは、ベビーカーごと入室できる広いスペースを確保し、プライバシーを守る施錠可能な扉を設置。ブース内にはおむつ替えベッドを新たに設け、鏡やハンガーフックなどの設備も完備することで、一か所でお子さまの身支度を完結できる利便性を追求しました。

さらに、フリースペースには、お子さまから目を離さずにおむつ替えができる物置台付きベッドを新しく導入するとともに、立ったままおむつを交換できるステップ台や哺乳瓶授乳に適したソファも新設。快適にご利用いただける設備を充実させました。

■ 今回のリニューアルのポイント

1. 壁と床材の色調を明るく変更し、温かみのある空間を実現。
2. 女性専用授乳ブースに施錠可能な扉を設置し、プライバシーを確保。
3. 授乳ブース内におむつ替えベッド、鏡、ハンガーフックを設置。
4. フリースペースに物置台付きおむつ替えベッドと立ったまま使えるステップ台を新設。
5. 哺乳瓶授乳や待合用にソファを新設。

当館の授乳室（ベビーケアルーム）は、東京都「赤ちゃん・ふらっと」適合施設です。

企画展

リビング・モダニティ 住まいの実験 1920s-1970s

2025年3月19日(水)―6月30日(月)

会場：国立新美術館 企画展示室1E、企画展示室2E



フランク&ペルタ・ゲーリー邸 1978年
© Frank O. Gehry. Getty Research Institute, Los Angeles (2017.M.66)



聴竹居 1928年
撮影：古川泰造

本展覧会では、20世紀にはじまった住宅をめぐる革新的な試みを、衛生、素材、窓、キッチン、調度、メディア、ランドスケープという、モダン・ハウスを特徴づける7つの観点から再考します。そして、特に力を入れてご紹介する傑作14邸を中心に、20世紀の住まいの実験を、写真や図面、スケッチ、模型、家具、テキスタイル、食器、雑誌やグラフィックなどを通じて多角的に検証します。

1920年代以降、ル・コルビュジエ(1887-1965年)やルートヴィヒ・ミース・ファン・デル・ローエ(1886-1969年)といった多くの建築家が、時代とともに普及した新たな技術を用いて、機能的で快適な住まいを探索しました。その実験的なビジョンと革新的なアイデアは、やがて日常へと波及し、人々の暮らしを大きく変えていきました。

本展覧会は、当代の暮らしを根本から問い直し、快適性や機能性、そして芸術性の向上を目指した建築家たちが設計した、戸建ての住宅をご紹介します。1920年代から70年代にかけて建てられたそれらのモダン・ハウスは、国際的に隆盛したモダニズム建築の造形に呼应しつつも、時代や地域、気候風土、社会とも密接につながり、家族の属性や住まい手の個性をも色濃く反映しています。理想の生活を追い求めた建築家たちによる暮らしの革新は、それぞれの住宅に固有の文脈と切り離せない関係にあるのです。

一方、それらの住宅は、近代において浮上してきた普遍的な課題を解決するものでもありました。身体を清潔に保つための衛生設備、光や風を取り込む開放的なガラス窓、家事労働を軽減するキッチン、暮らしを彩る椅子や照明などの調度、そして住まいに取り込まれた豊かなランドスケープは、20世紀に入り、住宅建築のあり方を決定づける重要な要素となったのです。そして、こうした新しい住まいのイメージは、住宅展示や雑誌などを通じて視覚的に流布していきました。

今から100年ほど前、実験的な試みとして始まった住まいのモダニティは、人々の日常へと浸透し、今なお、かたちを変えて息づいています。本展覧会は、今日の私たちの暮らしそのものを見つめ直す機会にもなるでしょう。

企画展

日本の現代美術と世界 1989-2010 (仮称)

2025年9月3日(水)―12月8日(月)

会場: 国立新美術館 企画展示室1E



【参考画像】
宮島達男《メガデス》1999年
©Tatsuo Miyajima, ©Estate of Shigeo ANZAI, 1999.
Courtesy of ANZAI Photo Archive, The National Art Center, Tokyo



【参考画像】
中原浩大《無題 (レゴ・モンスター)》1990年
©Kodai Nakahara, ©Estate of Shigeo ANZAI, 1990.
Courtesy of ANZAI Photo Archive, The National Art Center, Tokyo

国立新美術館は、香港の現代美術館 M+(エムプラス)との初めての共同企画により、「日本の現代美術と世界 1989-2010(仮称)」を開催いたします。

本展は 1989年から2010年までの約20年間に焦点をあて、日本の現代美術を再考するものです。昭和が終わり平成元年を迎えた1989年と、2011年の東日本大震災という大きな節目に挟まれたこの20年は、冷戦の終結とともにグローバル化が進み、国内外を問わず、政治、経済、文化、市民生活が大きく変化した時代です。

国や地域の枠組みを超えて、国際交流を重ねながら変化してきた日本の現代美術の軌跡をたどる本展は、この時期を象徴する作品と、諸地域で醸成されたアートプロジェクトというふたつの軸が絡みあうように構成され、国内外で活躍してきた日本人アーティストとともに海外のアーティストも取り上げます。本展覧会は、日本の現代美術の姿を、文化的な対話と参加による、多様かつゆるやかなネットワークとして描きだします。これは、日本の現代美術の独自性を強調するという従来の視点とは異なる見かたを提案する試みです。

本展覧会では、変化に満ちたこの時代に、日本の現代美術がいかに歴史的遺産やアイデンティティの多様性といった主題に取り組んできたか、いかに新しいコミュニティの可能性を模索してきたかを紹介します。また、グローバル化が進み始めて最初の20年にあたるこの時期に、日本の美術と視覚文化が世界に与えた影響を考察します。

企画展

ブルガリ カレイドス 色彩・文化・技巧

2025年9月17日(水)―12月15日(月)

会場: 国立新美術館 企画展示室2E

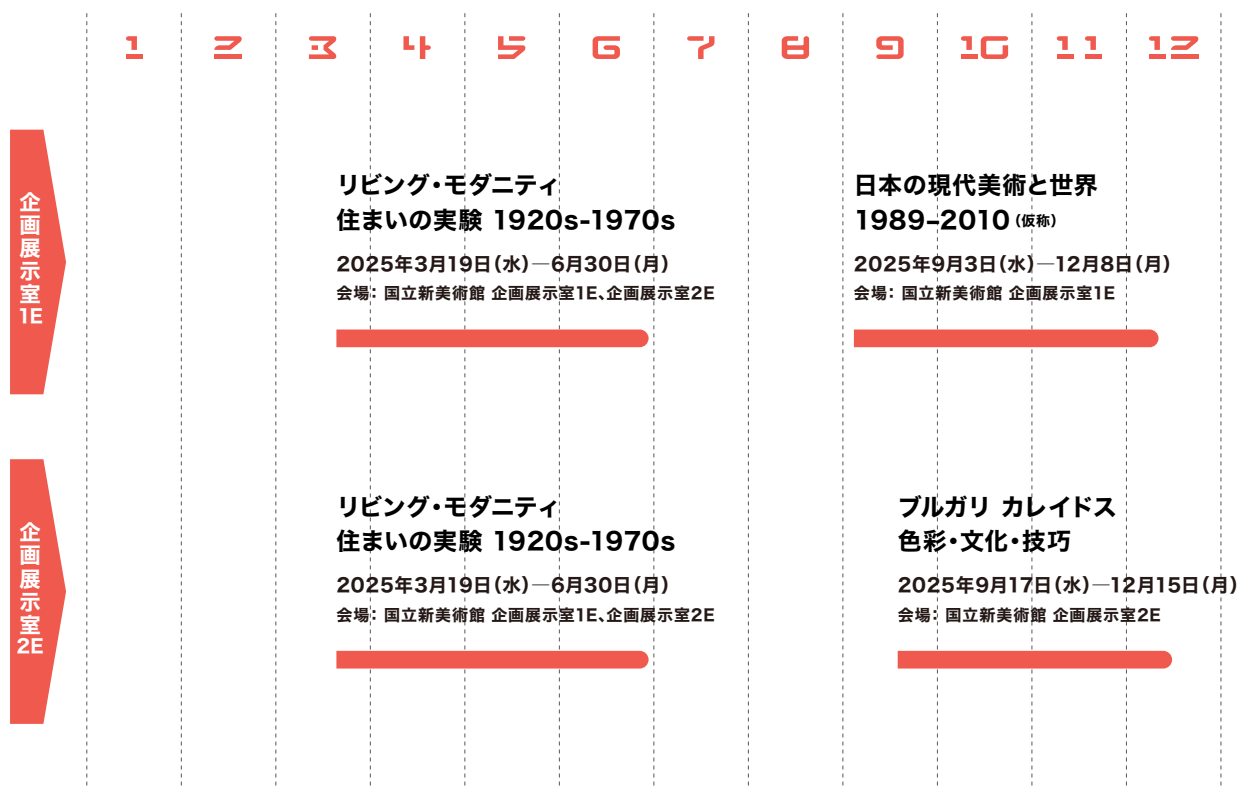


【コンバーチブル・ソートワール＝ブレスレット】
ゴールド、アメシスト、ターコイズ、シトリン、ルビー、エメラルド、ダイヤモンド 1969年頃
ブルガリ・ヘリテージ・コレクション
Convertible sautoir-bracelets in gold with emeralds, rubies,
amethysts, turquoises, citrines and diamonds
ca. 1969
Bulgari Heritage Collection
Photo: Barrella - Studio Orizzonte Gallery

色彩は何千年にもわたり、芸術における最も強力なインスピレーションのひとつでした。画家、デザイナー、彫刻家、エナメル職人、金細工職人、宝石職人たちは、目に見える世界を表現するためだけでなく、彼らの作品が人々に伝え、共有する感情を表現するために、色彩の視覚的な力を用いたのです。

色彩は普遍的なものだと言えるでしょう。というのも、色は五感のひとつである視覚によって知覚されるからです。18世紀から19世紀にかけて、科学者たちは色のスペクトルを分析することによって色彩の真の科学を確立し、私たちは目を介して脳へと、自分たちの体が色に対してどう反応しているのか理解できるようになりました。また、色彩は文化的なものでもあります。色彩は私たちを育くむ文明や教育というプリズムを通して感じられるものだからです。そのため歴史家たちは、色彩が古代・近代の創造活動に果たしてきた役割を熱心に研究し、それぞれの色の象徴性が国によってどの程度異なるものであったかを浮き彫りにしてきました。ハイジュエリーの色彩を研究することは、それを構成する宝石の核心へと迫る旅であり、宝石を通り抜け、貴金属に反射する光に導かれる体験をすることなのです。「カレイドス」はギリシャ語に由来し、「美しい(カロス)」「形態、種類(エイドス)」を意味します。本展覧会では、さながら万華鏡のなかを巡るかのよう、メゾンの歴史を刻む「ブルガリ・ヘリテージ・コレクション」と個人コレクションからの貴重なジュエリーとアートとを堪能していただけるでしょう。素材、フォルム、色調の融合からなる約350点のヘリテージピースは、美と卓越性を追求し、様々な文化を越えて、色彩の力により皆様を魅了します。

企画展スケジュール



国立新美術館について

国立新美術館は、芸術を介した相互理解と共生の視点に立った新しい文化の創造に寄与することを使命に、2007年、独立行政法人国立美術館に属する5番目の施設として開館しました。以来、コレクションを持たない代わりに、人々がさまざまな芸術表現を体験し、学び、多様な価値観を認め合うことができるアートセンターとして活動しています。具体的には、国内最大級の展示スペース(14,000㎡)を生かした多彩な展覧会の開催や、美術に関する情報や資料の収集・公開・提供、さまざまな教育普及プログラムの実施に取り組んでいます。

来館のご案内

独立行政法人国立美術館 国立新美術館

〒106-8558 東京都港区六本木 7-22-2

<https://www.nact.jp>

一般の方のお問合せ：TEL 050-5541-8660(ハローダイヤル)

開館時間

10:00～18:00 企画展会期中の毎週金・土は20:00まで
(入場は閉館の30分前まで)

休館日

毎週火曜日(ただし火曜日が祝日または振替休日の場合は開館し、翌平日に休館)、年末年始
*2025年4月30日(水)は臨時開館

アクセス

東京メトロ千代田線乃木坂駅

青山霊園方面改札6出口(美術館直結)

東京メトロ日比谷線六本木駅 4a 出口から徒歩約5分

都営地下鉄大江戸線六本木駅7出口から徒歩約4分

※美術館に駐車場はございません

広報用画像

最新のプレス画像は、下記までお問い合わせください。

プレスリリースお問い合わせ

国立新美術館 広報室 Tel:03-6812-9925 E-mail:pr@nact.jp